

日港協は誠意ある回答せよ

25春闘勝利総決起集会

全国港湾と港運同盟は、5月14日に開催される第5回中央港湾団交に向けた意思統一と全国団結、第4回中央港湾団交（4月16日開催）から中断期間中の事務折衝等の状況説明を目的とした「第3回25春闘勝利総決起集会（リモート）」を開催した。

集会開会に先立ち挨拶を行った全国港湾竹内中央執行委員長は、25港湾春闘は重要な局面を迎えている。賃上げでは検数・検定・関連の賃上げについては価格の誠意のない姿勢を許すわけにはいかない。

我々は日港協の姿勢に対して4度の日曜日24ストを決行した。このような状況下で日港協との事務折衝や国交省での記者会見等々、様々な取り組みを行いつつ25春闘の進展を図ってきた。集会の最後には全国港湾松永中央執行委員長代行による「団結万歳三唱」を行い25港湾春闘勝利に向けた全国団結を確認し集会を終えた。

港運同盟足立会長の挨拶では、第一回中央港湾団交が開催されてから3ヶ月が過ぎようとしている。他産業では満額回答が示されているなかで港湾春闘は長い交渉が続いており、日港協の誠意のない姿勢を許すわけにはいかない。

この集会で、全国の仲間と意思統一を確認し、一糸乱れぬ結束力をもって25春闘勝利への行動をお願いしたいと挨拶がされました。玉田書記長からの報告では、日港協と4月28日に折衝、30日に労使で国交省と



2025憲法大集会



5月3日（土）憲法記念日に東京・有明防災公園「未来は変えられる！戦争ではなく平和な暮らし！2025憲法大集会」が開催された。前日の悪天候の影響が懸念されたが、当日は前日の悪天候が嘘だったかのような快晴のもと3万8000人（主催者発表）が有明防災公園に結集し、改憲発議を許さず、憲法をいかし、平和・いのち・くらし・人権を守る決意を固めた。

13時から始まった集会では、法学者の植野妙実子先生、日本被団協代表委員の田中熙巳氏、政治経済評論家の古賀茂明氏、国会議員からは、立憲民主党辻元清美参議院議員、日本共産党田村智子衆議院議員、れいわ新撰組くしづち万里衆議院議員、社民党大橋ゆうこ参議院議員、沖縄の風伊波洋一参議院議員がそれぞれ連帯と激励のあいさつをおこなった。



きょうの憲法集会は共同で取り組むようになって10年目という節目の年である。共同のたたかいは2015年の安保のたたかいの大爆発につながり6万人集めたこともある。コロナのときは人が集まるのも大変だった。しかしこの間、いくつも訪れた改憲の危機をはね返してこられたのは紛れもなく憲法集会を中心とした私たちの粘り強い市民運動があったからだと確信している。今回私たちは「軍拡反対新署名運動」を始めることになった。いまこそ憲法をもって平和を作り出すときだ。戦争がない憲法が活かされる未来のために頑張りましょう。と熱く呼びかけ、会場からは大きな拍手が起きた。



検討する層は経済苦の他、家族に頼れない、相談できる人がいない、という特徴があることもアンケート結果で分かった。NPO法人の代表は「若者にはセーフティネットがあるようで無い」という。今の若者は電話で話す習慣があまりない。そのうえで怒られることを恐れるため、既存の相談窓口には繋がりにくい。若者には安心して話せる相談窓口の設置や、住居の確保、就学、就労などの伴走型支援が必要と強調する。孤立し、困窮している若者の支援を求められている。

シャモ樽

闇バイトが急激に増えている。警視庁の統計によると「匿名・流動型犯罪グループ（匿流）」に絡む犯罪容疑の検挙者が昨年1万人を超えた。「匿流」は指示役の実態が不明で、SNSで闇バイトの応募者を言葉巧みに誘い出し、詐欺や強盗、窃盗などの犯罪を繰り返している。応募者のなかには中学生や高校生などもあるようだ。NPO法人が、孤立しがちな若者から聞いたアンケートによると、闇バイトに誘われた場合「お金に困ったらやるかもしれない」と答えた割合が26.0%、「やると思う」が2.0%あった。その主な理由としては「生活費・奨学金の返済・病院代・税金の支払いなどに必要のため」が8割を超え、圧倒的に多い▼闇バイトを